

---

# 乱痴気 F i n a l F a n t a s y 学園！？

ALFRED

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

乱痴気 FinalFantasy学園!?

### 【Nコード】

N5769D

### 【作者名】

ALFRED

### 【あらすじ】

これは、FinalFantasyを異常な愛を注いだ乱痴気騒ぎである。あのキャラクターたちを何処まで壊しきれるか。え？アイツにそんなことさせるな？残念ながら、本当に異常なのは、……作者（俺）です。

## 第一話 ヒーローと愉快な？（FF4

チャイム音（上昇音）

〃この小説は、Final Fantasyを異常な愛しかたをしてしまった、学園物語である〃

〃この小説を読んで、精神をきたす、こんなこのキャラじゃない、は受け付けられません〃

〃なぜなら、Fan小説だからさ ベイベー〃

〃なお、FF本編とキャラが違い、ぶっ壊れているのは仕様なので悪しからず〃

チャイム音（下降音）

では、楽しめるお方は、お楽しみください

「楽しめるわけない！」

それは、僕の魂の叫びだった。

最終幻想学園 4組寮。

高等部2年、セシル・ハーヴィはこの度、幼女と過ごすこととなった。

実に、ラノベっぽい主人公の展開だった。

「……まあ、今年最後の学園生活だ。思いっきり楽しめ」

親友に言われて返した台詞が、冒頭である。

「待ってくれ！ カイン、誤解だ！ 違うんだ！ ……」

では、回想はじまりはじまり

~~~~~

目覚めたら、やわらかい感触とともに、腕の中に少女がいた。

~~~~~以上終了。

「で、寝坊したお前を起こしに来た俺が、発見したわけだが」

「何かの間違いなんだ！ 頼む、カイン！ 落ち着いてくれ！」

「まずはお前が落ち着くべきだ。セシル で、ローザは俺が貰うと」

「何でだよ！ あげないよ！ 彼女は僕のだ」

「独占欲の強い奴め そうか！ そ、そんなつつ」

急に悲痛な表情で、崩れ落ちるカイン。

「こ、こんな急展開なんて、あ、あんまりだ ローザ」

「私がどうかしたの？」

はい、ここで二人、大パニック。

だってここ男子寮ですよ？

最初はからかっていたカイン君だって、竜兜ぶつとばしててんてこ舞い。

「違うんだ！ ローザ、誤解だ！」

「そうだ！ 君とセシルの子供じゃないんだな！」

「そうか、その手があったか、ナイスカイン！」

「……はあ？ しまった！ 敵に塩送ってしまった」

ローザさん、ちょっと困惑気味。

で、部屋をのぞくと、狭い一室の奥に、布団一枚。

そこには緑色の髪をした可愛らしい女の子が メシリイ

ドアノブが握りつぶされました。(精神的意味で

二人『ひいいッ!』

「……セシル? カイン? ちょっとお話ししようか?」

冒頭、第一話から死亡フラグ満載ってどれだけ壊れた話なんでしょう。

進まないから、とつと起きて、ロリキャラ~~~~

「ZZZZ~~~~」

「セシル、何をしたかしらないけど。黙っててあげるわ」

「嗚呼、ローザ!」

「で、何処に埋めるの?」

黒 ヒ ロ イ ン      登 場      ! ?

「ローザ! 何かすごい勘違いしてない?」

「だって、暗黒剣を失敗しちゃって、死体を隠し切れなかったんですよ?」

大丈夫よ、私とカインは貴方を信じてるわ。あれは事故だったのよ」

「え、俺?」

「事故も何も起こしてない! 僕は無実だ」

「ええ〜 無実じゃないでしょう? 私のお母さん、×しちゃったでしょう?」

少女、起床！

「ダメだ！ 何かわけわからない！」

「私にはわかるわ。オヤシ（口押さえられる）」

「ナニ（ニ）ツイッテイルンダ　ろーざ！　いろんな意味でそれは危険だ！」

「落ち着け、セシル」

「落ち着けるかカインッ！」

「ローザも実はパニックっている……」

「言われて、ローザが、奥様笑いをあげながら硬直　そのまま後ろへゴインと倒れてしまい……」

「……とりあえず、落ち着いた。ありがとう、カイン」

「良かった。何もしていないがな」

「えっと、まず初めましてって言った方がいいのかな？　かな？」

とりあえず、その某セミの一種が鳴くミステリー路線から離れましょう。

「なるほどなるほど、懐かしいな」

「……僕らが悪だった時代だね」

何があったかちゃんと説明しやがれ、鉄仮面フルフェイスコンビ。

「つまり、昔　二人がまだ、悪フルだったところ……」

回想シーン再び

あれは、僕らがまだ高等部入りたての頃。

隣の幻獣異端学園　余りにも荒れていて、よく最終幻想学園と揉める、不良学園

そこに、ローザが浚われたんだ。

なんでも、御流米坐ごりゅうまいざとか言う不良集団が釣るんで、腕っ節の強いカインを引き込むための餌になったらしい。

僕は、父の制止も聞かず飛び出して、親友と彼女を連れ戻そうと、幻想学園の生徒と孤軍奮闘を果たしたんだ。

そのとき、一人の女性教諭を巻き込んでしまったんだ。

……その娘が

終了

「はい、私のお母さんです」

彼女だと。リディアちゃんだそうだ。

「お母さん、アレから辞職しちゃって 私たち母子は流浪の身。

このままじゃ、生活が苦しいからって

「そうか」

「責任取らせに、嫁行つてこいつて」

「娘に何仕込ませてんだよ！ 母親ッ！」

「大丈夫大丈夫、お兄さんの布団に勝手にもぐりこむだけで良いって、お母さんが」

「君のお母さん、本当に凶太いなああ！」

セシル君、もんどりうつて、狭い室内を大暴れ

「落ち着け、セシル。俺は今日、何回お前をなだめねばならんだ」  
「……わかった、落ち着く」

とりあえず、出がらしのお茶を一杯、がぶ飲み。  
セシル、改めてリディアちゃんに向き、

「でも、ここは男子寮。それに、学年が違いすぎるだろう?」  
「編入試験なら受かりましたよ? あと、学園の許可だって」  
「嘘だアアア! (絶叫)」  
『ローザ! (いろんな意味で) ダメだって!』

暴走しかけの彼女さん。作者も思いもよらぬ豹変に、ちょっと後悔。

「えつとですね。セシルさんにお兄様と叔父様がいらっしやいましたよね?」

「え? フースーヤ爺ちゃんに、ゴルベ兄さん?」

「そのお爺様が快諾してくださったんです」

「……フースーヤって、ジェミニムーン会社の副会長かよッ」

「あとはお金の力よって、お母さんが言っていました」

「頼む! そっちの方が物凄く頼りになるから! 流浪の身だって簡単に救ってくれるよ!」

「お兄さん、曰く。セシルへ『ざまあみろ』、って言えばわかるって」

「何故なんだ! 兄さんツツツ!」

なお、カイン硬直中。

当時、御流米坐の組織の裏Bossがその兄なのは、いまだにセシルには内緒だったりする。

「くう! 断固抗議する。おのれえ、兄さん」

「あのお、力んでいるところ、悪いんですけど?」

と、リディアちゃん。壁掛け時計を指差して



午前、8時をお知らせしていた。

「遅刻しちゃいますよ?」

なお、このあと、4組に彼女が飛び級で転校してきて、  
なおかつ召喚師待生だったりとか、

どっかの忍者野郎がロリ属性を発揮したりとか、それはまた、別の機会に

「だあああ! 遅刻するうううう」

鉄仮面に学ランが激しく不一致だが、セシルと愉快的仲間たちと

「だあああ! 遅刻するうううう!」

その曲がり角で、やはり遅刻したらしい学生が

モーターサイクル(注:ようはバイク)を全力全開でかつ飛ばして

王道なら ところで衝突して。

って、そのネタは運命の出会いの王道なんだけどこ  
ここで使っても良いよね?

バッゴ~~~~ン

## 第一話 ヒーローと愉快な？（FF4（後書き））

### 楽屋部屋

セシル「……僕が、嗚呼、僕が……」

リディア「私、こんなことしない」

カイン「やれやれ（諦め）」

ローザ「（赤面、言う言葉が見つからない）」

ALF「ふっ、受ければいいのだよ、受ければ！」

セシル「受けないよ！ こんなことして、何が楽しいの！」

ALF「俺が楽しい！」

カイン「こいつ、小説舐めてるだろう（拳ワナワナ）」

ALF「馬鹿野郎！ カイン、よく聞け！ ここはシリーズFF本編じゃねえ！ この世界ではな、場合によっちゃカイン、お前がローザをゲツチュできつかもしれねえんだぜ！」

カイン「（白け）」

ALF「そしてリディア、俺はFF4は時代を先取りした最先端の作品だと、常日頃切実に思ってたんだな！」

リディア「はい？」

ALF「それはYouだ！ ロリ！ FFシリーズ始まって初の、ロリ！ しかも悲劇のヒロイン系！？」

何この王道！ ポロパロ双子シリーズまであって、何だ？ この力オスツ！」

セシル「ダメだ、脳みそが腐っている……」

ALF「セシル&リディアも悪くない」

セシル「ちよっと待った！ 作者、その路線はしらせる気か！」

ALF「ラノベ主人公の王道だろう！ だが、これはFFファンノベル。お前ばつかに構ってられん。次は奴だ……」

カイン（全員分書く気が、コイツ……）

第二話 ヒーローとぶれいんくらっしゅ (FF7)

なあゝっはっはっはっはっは！

突然だが、俺はお花畑にいる！

……記憶が飛んでるな。ここどこだったけ？

えっと、確か

曲がり角で、鉄仮面二匹とロリ、それと別嬪に接触事故、予知

以下、回想

黒い鉄仮面が「うわぁ！」って叫んで 別嬪さんが「危ない！セシルッ」って、黒仮面押し飛ばして、「危ないローザ！」って 竜仮面が突き飛ばして

社会的常識からかんがみて、仮面二人はセーフだと思ったが、お嬢さんの面子もあるう、ここは

「ハアツハツツツ！ ソルジャー部 クラスファースト！ ザ  
ツクス様の腕をとくとみやがれえええええ！」

いえ、明らかに左右不確認の君が悪いです。はい。

はっ！？　今、何か聞こえた。

神（作者）の声です。

やっぱしい！？　ここ天国かよ！

……（やっぱ、死後の世界編とか作ろっかな）

なんだ？　この作者？　やる気が見る見る失っていく

……はいはい、さっさと回想に戻ろうね。（あかん、陽気系キヤラは逆境楽しむからつまらん）

そう、俺は自慢のウィリーをハーディディトナで、ぶちかまし  
四人の眼前で

そう、吹き飛んだんだ。

向こうの壁を越えて　ひゅーっん、どしゃって……

「ようこそ、Welcome to 地獄へ！」

「イヤアアアア！　腐乱死体が何かほざいてるうううう！」

はっ！

「気がついた？　すごいなされてた　あつてえッッッ！？」

がばつと飛び起きて、彼女の額とガツチン！

ちよつと涙目になってから、……そう、彼女は

「エアリス？　エアリスじゃんか！　……って、何でここに？」

「ここは学校別棟、聖シンラ教会だよ。ついでに園芸部部屋」  
言われて、俺はお花畑は彼女の丹精込めた花々だと気づき、すぐに飛びのいた。

いやいや、飛びのくだけじゃダメだ！  
横転してるデイトナも立て直して、下敷きになっているチョコボ頭を

.....

.....

.....

.....

.....

ちょ！ お前ッ！

「なんて美味しい場所に.....じゃなかった！　なんでこんな状況になつてんだよ！」

「それはこっちの台詞よ！　何よいきなり天井突き抜けてきてえ！」

怒鳴ったのはエアリスじゃない。あのナイスバデーは.....ティファちゃんじゃねえか！

なるほど、.....俺は天井まで跳ね上がってから落下したのか！？  
俺、すんげえ！

.....じゃなくって！

「不可抗力だ！　ティファちゃん。それより、コイツ！　頭大丈夫なのか！」

「大丈夫じゃないわよ！　今見つけたのよ」

「今かよ！　さっさと引ッ張り出すぞ　って、うわあああ！　洒

落にならねええええ！」

黄色と緑の花々の中で、真っ赤なお花が……あゝあ……  
退学、かな……

(……案ずるな、ザックス)

……？

保険医の先生を呼んでもらって、俺とエアリスが濡れ手拭いでソイツの額を冷ます。多分、あってるよな？

止血は知ってるのに、脳震盪にかんしちゃ　これ、脳震盪で済むのか？

「……大丈夫？」

「なあに、コイツは俺と同じ、頑丈さ」

一緒に雪山登って降った仲だ。そう　そう簡単に

「……ん」

と、ソイツの眼が開いた

……怪しい輝きをしていた。

「大丈夫？　クラウド……」

「大丈夫？　……そうか、俺は」

「嗚呼、クラウド！　無事だったか！」

いや待て、まだ安心できん。保険医に頭見せないと俺は、あの上から落下したのか」

……マジで頭見せない和不味い？

「あゝ、クラウド？ 自分の名前、言つてミソ？」  
「……俺か？ 俺はクラウド。ソルジャー・クラスファースト」

マジで頭見せない和不味い！

「……く、クラウド？」  
戦くエアリス、ここは俺が  
「どうしたんだ？ エアリス」  
「つてライ！ エアリスはわかるんだな！」  
「……アンタ誰だ？」  
「を、俺はわかんねえのかよ！」  
な、なんて不順な奴 女の子の名前は覚えてやがるんだな！  
俺はお前の名前、三回で覚えたぞ！ 三回間違えてな！

「嗚呼、アンタ……その制服、ソルジャー部か？」  
俺ら、ソルジャー部つてのは、私的に制服を改造しているのだ。  
特性ベルトに肩アーマー で、有名になったら肩アーマーに自分のロゴはつつけるとかさ。

「お、おう ソルジャークラスファースト、ザックスさんだ！」  
「知らん」

「ああああああああああ！ 言いやがったなああああああ

ああ！

そりやそ〜〜だろお〜〜なあああ！

ど〜せ皆、美形のセフィロスやら、花形のジェネシスばつかだよ！」

「（きゅぴ〜〜ん）！？ …… フィ、ロス？ …… 嗚呼、頭が、

割れるように。あ、熱い やめろ、… フィロス」

「嗚呼！ 動けるんなら保健室、いや医者行くぞ医者ああ！ っ  
たくもお〜〜」

手を掴もうとして、クラウドは俺の手を弾いた。

「気安く触るな そうだ、俺はソルジャー……ソルジャーなんだ。  
俺に必要なのは、戦場」

「全国大会はもう夏に終わったつう〜の！」

「……アンタたちについてなんて興味ないね」

「うっせえ知るか！」

「……やる気か、この俺と」

と、その傍で墓標として立っていた 俺の、先輩……

「て、手前エ！ その剣に触れんじゃねえ！ それはアンジール先輩の……」

（すまん、ザックス……失敗した）

「あ、アンジール先輩！」

「うっそ？」

エアリスまで そうだった、エアリスには不思議ちゃんパワーがあっただ。だ。

「エアリス 先輩に話聞いといってくれ、どうやら俺は……」

嗚呼、ちつくしよ〜〜 アンジールのバスタソード、って、ア



レ糞重たいんだぜ？　なんで簡単に振り回すんだよ！

「俺は、トチ狂った馬鹿に目覚ましパンチを食らわせてやるぜ！」

ドンガラガツシャン！

「……えっと、アンジール、先輩ですよね？」

（嗚呼、わけあって、後輩の願いを聞いて、ここに自縛霊になっているが……）

「クラウドに、何があっただんでしょう？」

ドンガラガツシャンバッキンゴツガングワツシャアアアアン！！

（ザックスは屋上からバイクごと落下してきたんだ。

無理もない、クラウドの体から魂とライフストリームが離れ離れになりかけでな……。

でだ、代替案として　私の体　この霊体の大部分を使用して、離れた魂を繋げたんだ　結果）

「嗚呼、先輩の記憶とクラウドの記憶がごっちゃに　」

（それだけじゃない。あの青年に憑り付いてわかったのだが、どうも私やザックスに憧れを抱いていたようだ……それが）

ドンガラガツシャンバッキンゴツガングワツシャアン「あ、コラ

！　お花踏むんじゃないやねえええ！」「貴様はもう、三回踏んでいる」

「だあああエアリスごめん！」

「あああああ！？　許さない！　ザックスゆるさないんだからあああああ！」

「な、ちょッ！ 待った！ 二人掛かりはって、何でエアリスそっちいい？」

アンジール先輩、ほのぼのと呟く。

（歪んだ形で叶えられた力だが、まあアイツがいれば大丈夫だろう……）

そして、成仏。

これが後の、最終幻想学園、七不思議。枯れない花とその守護者の物語となるのは、はてさていつなの確か。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5769d/>

---

乱痴気 F i n a l F a n t a s y 学園！？

2010年11月18日14時43分発行